

肘関節拘縮に対する牽引方向を構造的に制御した拘縮除去装具の臨床的使用経験 — 後向きケースシリーズ —

1. 研究の対象

2019年3月から2025年5月までの期間に、南和歌山医療センターにて、骨折や外傷後に一定期間の固定または運動制限を経て肘関節拘縮が生じた症例に対し、牽引方向を構造的に制御する構造の拘縮除去装具を使用した患者を研究対象とします。

2. 研究目的・方法

肘関節拘縮に対して牽引方向を構造的に制御する構造を有する拘縮除去装具の臨床的使用経験について、診療録に記載された情報を用いて後向きに整理し、装具導入の判断過程、装着状況、使用経過および装着継続に影響する要因を明らかにすることで、今後の肘関節拘縮に対する装具療法および臨床対応の参考とすることです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、原疾患、受傷機転、治療内容（手術の有無・術式等）、拘縮部位、装具構造の概要、装着状況および使用方法、使用中の問題点や臨床経過（診療録に記載された可動域変化や使用感等）、診療上必要に応じて撮影された単純X線画像（新たな撮影は行いません）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒646-8558

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター

研究責任者：所属 リハビリテーション科

氏名 藤澤 秀生

電話：0739-26-7050